

博士論文要旨

論文題名：世界秩序を構想する学習による平和教育の再構築

—中等教育におけるカリキュラム開発と実践—

立命館大学大学院 国際関係研究科

国際関係学専攻 博士課程後期課程

ノジマ ダイスケ

野島 大輔

本研究は、日本国内での中等教育（高等学校公民科）における、世界秩序を構想する学習の導入を基盤とした新たな平和教育のカリキュラム開発とその授業実践とを主眼として、日本国内の平和教育において国際関係論の知見を導入した新しい且つ有効なカリキュラム開発はどうあるべきか、を問うものである。国際的な平和教育の研究・実践の成果をもとに、コンストラクティヴィズム、国際（地球）立憲主義、平和学などの新しい国際関係論の理論を導入しながら、実践可能かつ有効なカリキュラムを開発し、長期に渡って低迷している日本国内の平和教育の再構築に貢献しうる事例の提示を試みる。国際関係論が教育学と接する領域を扱う先例の少ない研究であり、且つ日本国内では「平和教育学」が未確立であるため、国際関係論からの視点に主軸を置きながら、教育学のカリキュラム開発の方法を用いていく。

第Ⅰ章では、日本国内の平和教育が1990年代から長い低迷期に入っている主因として、国際関係論からの検討の欠如を挙げ、特に新しい国際関係論の理論との乖離の現状を指摘しながら、新たな平和教育のカリキュラムが備えるべき諸要件を分析する。

第Ⅱ章では、米国や国連での国際的な先行研究・実践を基に、新しい国際関係論を導入し、アクティヴ・ラーニングの手法を用いた、望ましい世界秩序を構想する学習の骨子及

びその具体的な展開を探究する。

第Ⅲ章では、それらの条件に基づいて作成されたカリキュラムを提示し、高等学校における7年間の授業実践を通じて、その有効性を検証する。

結論では、以上の研究と実践を踏まえながら、日本国内の平和教育が国際関係論からの検討を恒常化することなどを通じて、国際関係論と教育学との紐帯を強化していく必要性を提唱する。

このように、望ましい世界秩序を構想する学習のカリキュラム開発を事例に、日本国内の平和教育は、新しい国際関係論を導入することを基軸として、現代の国際的な紛争に対する応接力を高めることにより、その再構築への契機が得らえると主張するものである。